

総社吉備路商工会

総社吉備路商工会
総合アクションプラン

目次

1. 総社吉備路商工会地域の概要	2	3. 総社吉備路商工会の中期ビジョン	9
		(1) 総社吉備路商工会の使命	9
2. 行政・団体の将来計画	3	(2) 5年後のあるべき姿	9
(1) 総社市まちづくり計画	3	(3) 基本姿勢	10
・将来都市像		(4) 経営支援機能	11
・地域別の基本方針		(5) 地域(まち)づくり機能	17
(2) 総社吉備路商工会地域総合振興計画	6		
まちづくりビジョン			
・商工会地域の状況と課題			
・商工会3地域の将来ビジョン			

1. 総社吉備路商工会地域の概要

総社は岡山県南西部に位置し、東を岡山市、南を倉敷市に接する面積約212km²、人口66,200人の市です。年平均気温は16.5度前後、年間平均雨量は1,000mm前後の温暖・少雨の気候で、市の中央を南北に岡山県3大河川のひとつである高梁川が流れています。市内には縄文以前からの遺構が残り、1,000基以上の古墳があります。飛鳥・奈良時代には備中国府や備中国分寺、備中国分尼寺が置かれ、古代吉備王国時代から備中の政治・経済・文化の中心地として栄えました。「総社」は、備中国内の神々を合祀して平安時代に建てられた「総社宮」に由来しています。鎌倉時代以降は、山陽道や高梁川の水運を活かした門前町、宿場町の性格が強くなり、豊かな農村地域として発達しました。高度成長期を迎えた昭和40年代頃からは、県内工業地帯の発展に伴う宅地開発と工場進出が続きました。近年は住宅都市・学園としての姿も見せています。昭和47年4月昭和町を編入、平成17年3月に旧山手村、旧清音村との合併を行いました。

総社市は、東西南北4地域にゾーニングし、各地域の開発計画を策定しています。総社吉備路商工会は、東部の山手地区、南部の清音地区、北部の昭和地区をエリアとしています。

地域	総社市民アンケートに準ずるエリア区分
東部	三須 服部 阿曾 山手
西部	神在 秦 久代 山田 新本
南部	総社 常盤 清音
北部	池田 昭和



2. 行政・団体の将来計画

本アクションプランの策定は、「総社市総合計画(総社市まちづくり計画)」、「総社吉備路商工会地域総合振興計画」などの地域振興計画を踏まえ具体化していったものです。

(1)総社市まちづくり計画

1)将来都市像

本市には、特有の伝統文化、豊かな自然環境、地域特有の産業や生活環境を持つ地域が結び合い、快適な生活と伝統文化や産業及び自然が美しく調和した高いレベルの住みやすさと新たな吉備文化を創造するまちづくりが期待されます。

そこで、新市の将来都市像を、次のとおりとします。

地域・文化・自然が支える
心豊かな生活交流都市

まちづくりを進めて行くに当たって、まちづくりの基本理念として、「共生」「交流」「文化」の3つの柱を掲げます。今後は、このまちづくりの理念を基本として施策や事業の展開を図っていきます。

「共生」～やさしさを育てるまちづくり～

本市は、豊かな自然環境と歴史景観に恵まれた都市であり、次の世代にこのすばらしい環境を残していくことは、今に生きるわれわれの責務です。そこで、市民・事業者・行政が一体となって、良好な自然と歴史景観、生活環境を保全し、環境と共生していくまちづくりを進めていきます。また、少子高齢化、核家族化など社会環境の変化が進むなか、地域の相互扶助機能や教育力の低下が懸念されることから、それぞれの市村がつくり守ってきたコミュニティを生かし、連携を図りながら、すべての市民が健康で互いに支え合う、ともに生きるまちづくりを推進していきます。そのために環境・福祉・教育・まちづくりなどのさまざまな分野において、市民の参加を促進するための新しい制度や条件などを整備し、行政と市民がともに地域の暮らしを支える、本市にふさわしい新しい時代の協働のまちづくりを推進していきます。

「交流」～元気を生み出すまちづくり～

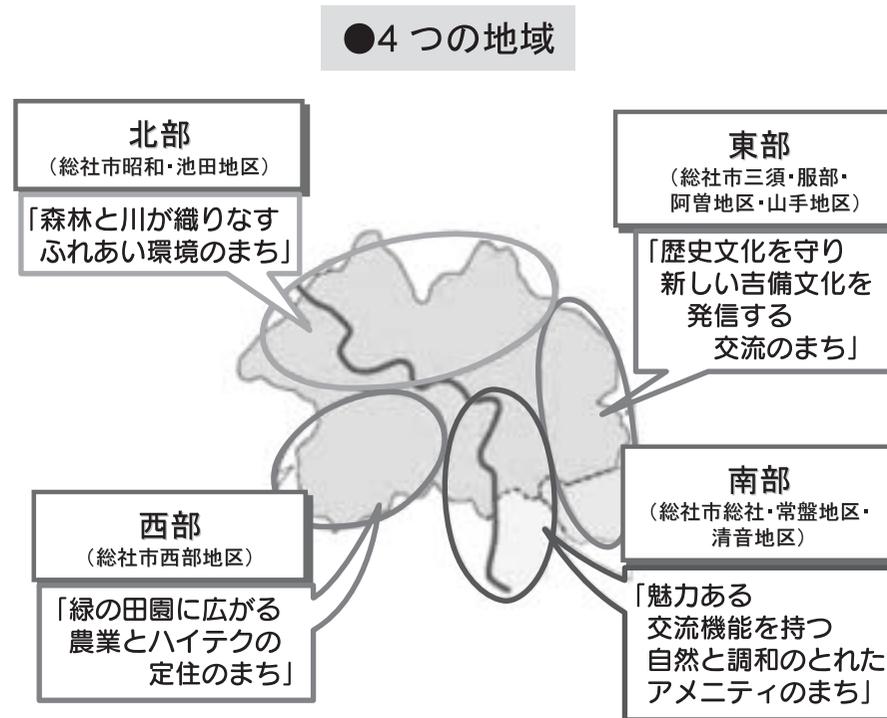
本市は、県南広域市町村圏北部における核になる都市として、また中四国における広域交通の拠点都市として、その恵まれた広域交通性を生かした魅力ある都市づくりを進め、人・物・情報が集まる交流都市として発展していくことが望まれています。そこで、魅力ある賑わいと、安全で快適な都市環境をつくり出していくために、広域道路網、公共交通などの交流機能の整備や、拠点性を高める都市機能の整備、大都市との情報格差の是正のための施設整備などを進めていきます。また、合併により本市を形成する旧市村間の交流性を一層高め、新市としての一体感を醸成していくために、アクセス道や公共交通、情報基盤などの整備に加え、住民同士の交流を促進するソフト事業を推進していきます。

「文化」～豊かな心を育むまちづくり～

本市は、古くから古代吉備王国の中心として栄えた地域であり、今も残る数多くの文化遺産は、この地が古代から人が集い豊かに暮らしたすばらしい地域であったことを語りかけてくれます。この誇るべき吉備文化を現代に生かし、新しい魅力ある市をつくりあげていくために、われわれの心のふるさとである吉備路を再発見したうえで、市民と行政が手を携えて、新たな吉備文化と地域アイデンティティの創出に努めていかなければなりません。そのため、歴史文化遺産、歴史景観の保全整備、情報発信を積極的に進めるとともに、岡山県立大学をはじめとする数多くの地域の人材と資源を生かした、新しい市民文化を創造するまちづくりを推進していきます。

2)地域別の基本方針

これまでの3市村の土地利用の基本方針と、自然的条件や歴史的条件、社会・経済的条件や発展経緯などを踏まえ、本市では次の4地域に区分し、地域別の基本方針を定めます。



(2)「総社吉備路商工会」地域総合振興計画 まちづくりビジョン

①3地区の定義と課題

東部の山手地区、南部の清音地区、北部の昭和地区、それぞれの定義および課題は以下の通りです。

山手地区

総社市東部地域(三須、服部、阿曾、山手)

定義:「歴史と文化を守り、新しい吉備文化を発信する交流の町」

総社市の東部にあって、県立自然公園を有し、古代吉備王国の文化遺産が豊富に残る地域です。

高速道路IC、国道429号、サンロード吉備路等により総社市の玄関口として整備が進んでいる地域です。

- ①吉備路風土記の丘、旧山陽道周辺地域については伝統的歴史景観を保全。
- ②吉備文化を発信する拠点施設の整備と滞在型観光の展開を推進。

清音地区

総社市南部地域(総社、常盤、清音)

定義:「魅力ある交流機能を持つ、自然と調和のとれたアメニティの町」

高梁川東部平野部に広がる地域であって、市街地、住宅地、工業地域として整備が進められており、都市的サービスと、まちの賑わいを提供する地域です。

- ①水辺環境の整備等潤いのある環境に配慮し、総社・清音間を連絡する幹線道路を整備。
- ②市民の交流拠点となる施設を整備し、市民文化の高揚を図る。
- ③住宅地については、生活道路、公園等を整備し、アメニティの高い居住環境づくりに努める。

昭和地区

総社市北部地域(昭和、池田)

定義:「森林と川が織りなすふれあい環境の町」

総社市の北部にあって、豊かな森林が広がり、高梁川の清流に恵まれる地域です。

- ①都市部では望めない自然と一体となった居住環境の確保に努める。
- ②地域の拠点となる地区に定住と賑わいのための施策を引き続き進める。
- ③自然資源やレクリエーション施設などの森林と水辺空間が一体化したゾーンの形成を図る。

2)商工会3地域の将来ビジョン

1)山手地区

ア)話題性あるストーリーの提供による観光客誘致への取り組み

- ・古代における仁徳天皇と吉備王国の姫であった黒媛のラブロマンスを脚色、アレンジ等によりストーリー化し、各方面の注意をひきつけ観光宣伝に活用します。当面は、関係資料の収集から始めます。

イ)地域内観光の組み合わせ、ルートについて再検討する

- ・「自然とのふれあい・歴史探訪の道」としての吉備路自転車道、「産業観光」施設としての五重塔の眼前に立地する酒醸造資料館、「地産地消」としての農産物直売を吉備路観光の核として観光ルートの検討に着手します。

2)清音地区

ア)スポーツクラブ、コミュニティグループとの協働(コラボレーション)

- ・・地域で大きな存在感を持つスポーツクラブ、地元産青大豆を使用し、「地産地消」を実践している豆腐製造グループとの連携・協力関係を築きます。

イ)経済団体として、住民生活の利便性確保を目指す

- ・・消費生活者が買い物利便性で満足できるように、創業、第2創業等の施策を活用し、良質な商品・サービスの新たな提供を目指します。

3)昭和地区

ア)環境運動への取り組み

- ・・現在、岡山県は昭和地域で「タンチョウ放鳥飼育調査」を実施しています。今後は、タンチョウ飼育が「調査」から「定住飼育」に格上げを求め、タンチョウを地域のシンボルに据えた環境保全の広範な地域活動を提案します。

イ)農業の活用

- ・・地域に増加している遊休農地、不耕作農地、空き農家住宅等の活用をグリーンツーリズム(体験型農業小旅行)体験農園、市民農園、定年帰農の面から検討。また、商工会もしくは適当な第3者機関が農業者と連携して地元産農産物を小売商店に仲介する「地産地消」型の商店経営を推進します。

3. 総社吉備路商工会の中期ビジョン

(1) 総社吉備路商工会の使命

昭和、山手、清音村商工会の3商工会が広域商工会として「総社吉備路商工会」となり、地域総合経済団体として、従来のエリアから拡大した新しいエリアで商工業振興を推進します。地域商工業の発展を目指した経営支援活動、地域づくり活動について、商工会が地域を代表する経済団体として、リーダー役を担い、行政、地域住民、関係団体と協働した地域づくりに(主体的かつ)積極的に取り組んでいきます。そして、その実現のために、中長期的視点でのアクションプランを策定しそのプランに基づいて具体的事業を展開していきます。

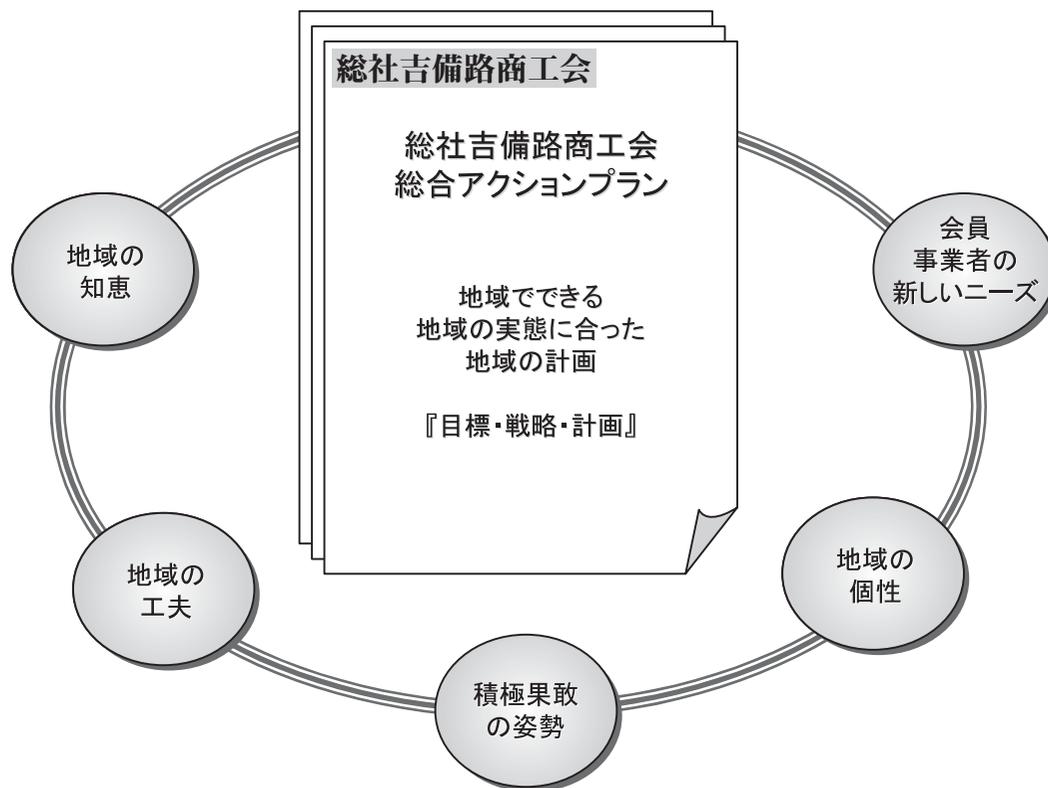
総社吉備路地域の繁栄のためには、総社吉備路地域の商工事業者が繁栄することが必須条件であり、それこそが商工会の使命であることを改めて強く認識する。

(2) 5年後のあるべき姿

- ①行政・関連機関等の参画を得た総社吉備路の商工会会員事業者が主体となって取り組む明解な中期ビジョンのもとに、事業の計画的・継続的实施や円滑な推進が確保できている。
- ②商工会の内外にその明快なビジョンを常に示し、実行の進捗および結果・成果を公表することで、その存在感を会員はもとより住民、行政をはじめとする地域社会に高く評価・認知されている。
- ③新しい経営支援サービスの提供、主体的な地域づくり活動の結果として、地域の経済活動基盤が強化され、活力に満ちた住みやすい地域が実現することで、会員事業者の活動ステージが充実している。

(3) 基本姿勢

- ①単なるビジョンで終わらせるのではないことから、泥臭くとも会員や地域の知恵と工夫を結集し、「地域で実現できる、地域の実態に合った地域の計画」とする。
- ②プランには総社吉備路地域の長期ビジョンの方向をふまえながら、商工会として取り組むべき事項、目標、戦略を積極果敢に盛り込むことにしている。
- ③プランの目標は、会員事業者の新しいニーズに応え得るものであるとともに個性が活かされた地域の実現を目指すものとする。

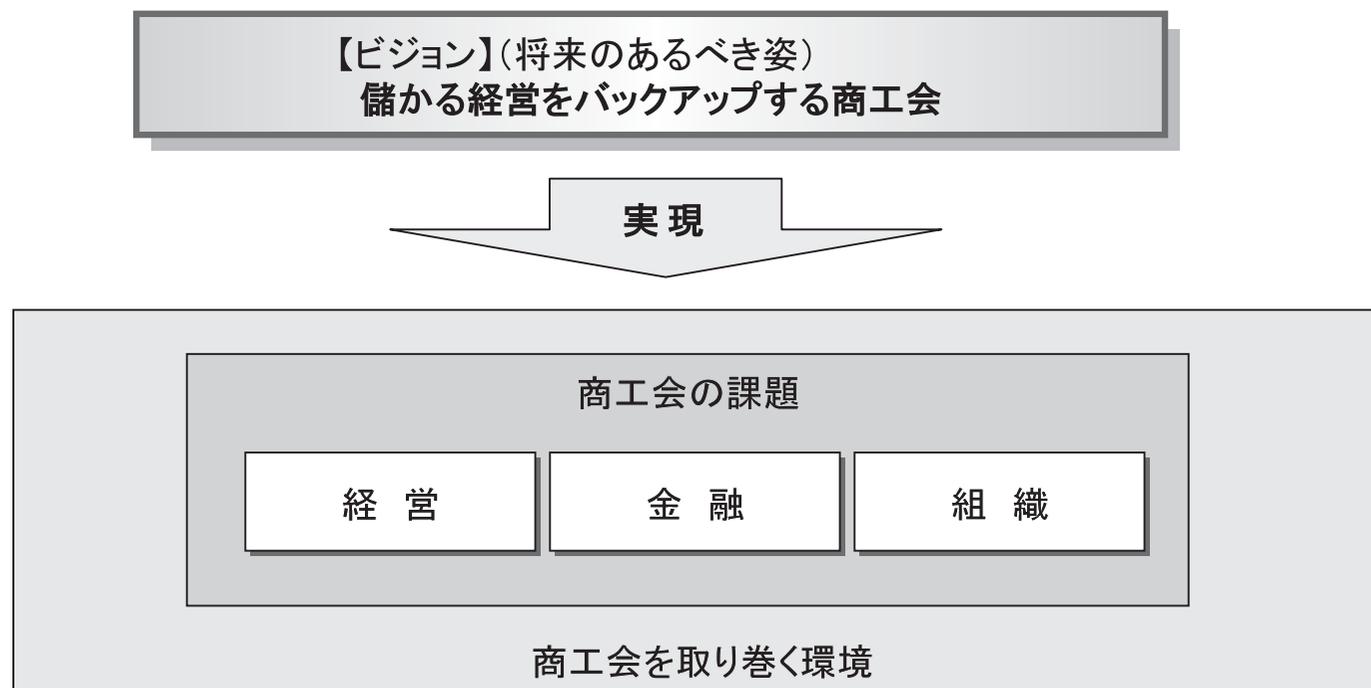


(4) 経営支援機能

① 経営支援機能のビジョン

景気は回復傾向にあるものの、商工会会員の大多数を占める小企業にとっては、依然厳しい状況が続いています。また、中小企業の事業展開も多様化し、より専門的で高度な支援を必要としています。

商工会は、従来から決算申告や労働保険をはじめ労務相談、そして金融斡旋など基本的な経営支援を主体として行ってきました。実際、現状でもそうしたニーズは依然として高く継続して支援していく必要はあります。しかし、会員のニーズ調査からも明らかになっているように「事業の成長のための支援」いわば「儲かる経営をバックアップ」する商工会としてビジョンを設定し、変わっていくことが望まれていると認識しています。このビジョン達成に向けて、今まで利用の低かった「経営」に関する支援、幅広く充実した「金融」支援、そしてこれらを高次元で実施していくための「組織」づくりを柱としての経営支援を組み立てていくこととしました。



②ビジョン実現へ向けての課題

「儲かる経営をバックアップする商工会」を実現するための課題を整理すると以下のようになり、課題は山積しています。これを短期で解決するもの、中長期的な視点をもって粘り強く解決していくものに仕訳を行い、一つひとつ確実に解決し、ビジョン達成に向けて努力していきます。

【ビジョン】 儲かる経営をバックアップする商工会	
ビジョン実現のためアクション	<p>経営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経営に関する相談指導の利用率向上 2 専門指導のニーズの喚起 3 工業に関する指導力の強化 4 販路開拓支援に関する指導力の強化 5 非会員に対する巡回指導の徹底 6 会員間の交流・連携の促進 7 産学連携の仕組みづくり 8 経営革新計画策定支援 9 経営改善計画策定支援 10 再チャレンジの支援 11 ASP版記帳機械化の推進
	<p>金融</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国民生活金融金庫の利用促進 2 岡山県信用保証協会の利用促進 3 地元金融機関との連携 4 国・県金融施策の活用
	<p>組織</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 商工会の認知度の向上 2 総社市との連携、パイプづくり 3 商工会の利用し易さの向上

③実行項目

『ビジョン実現のためのアクション』の各項目に対応した具体的な実行施策は次のようになります。

経営

1) 施策パンフレットの作成配布

経営1 経営2

商工会の事業、サービスをわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、会員、地域商工事業者の皆様に配布いたします。商工会では何をしてくれるのか、商工会に相談すればこんな解決の糸口が見つかる..といった内容としていきます。

2) 計画に基づく巡回指導

経営1 経営5

こまめに事業所を訪問することにより、常に経営相談の一番身近な存在として認められるようになっていきます。さらに商工会地区全体で上下期に分け、巡回指導計画を立て、商工会施策、方針に基づいて効果的に実施します。

3) 専門家との連携指導

経営3 経営8 経営9 経営10

各分野の専門家を無料で派遣し、経営資源の少ない小規模事業者の問題を解決するエキスパートバンク制度、経営革新計画策定を推進するシニアアドバイザー制度などを活用し、商工業者の高度で多様化するニーズに対応します。指導員が、こまめな巡回を通してそのニーズを商工業者から喚起し、適切な形で専門家と連携し、強力に「儲かる経営」をバックアップしていきます。

4) 経営戦略構築シート活用

経営8 経営9

通称「やる気プラン」を積極的に活用する。企業台帳、経営・財務分析等の内容で確実に的確に企業の状況を把握でき、また、ヒアリングを通して経営計画策定支援もできる。その結果、的確な各種施策の利用促進を行い、強力な経営支援につないでいく。

5)ITを活用した販路拡大支援

経営4

インターネットによる販売などは、地域、小企業での資金・資源の格差を是正しやすく、小規模事業者にとって大きな魅力がありニーズも高くなっている。必要に応じて専門家とも連携しながら積極的に取り組んでいく。

6)商談会開催による販路拡大支援

経営4

経営6

経営7

商談会、展示会の開催を通して、取引の促進、会員間の交流連携、産学連携、異業種交流のきっかけ作りを行う。

7)事務受託による経営の合理化

経営11

記帳事務、労働保険事務の受託は人的資源の少ない小規模事業者にとって非常にメリットは高いものと思われる。その余力をもって前向きな経営戦略実行に集中できる。今後も積極的に働きかけていく。

金融

1)金融懇談会の開催

金融1

金融2

金融3

国民生活金融公庫、地元金融機関、信用保証協会などとの金融懇談会を開催し、情報交換を通して、円滑で幅広い金融斡旋を実現していきます。

2)会員向融資制度の確立

金融3

地元金融機関と協定を結び、会員向融資制度を創設します。幅広い金融斡旋のニーズに対応することで会員メリットを打ち出すことができるようになります。

3)金融相談会の開催

金融1

金融2

金融3

金融4

組織

1) 会員増強運動の実施

組織1

組織3

組織率の向上を常に意識した活動をしていきます。商工会の役職員一体となって取り組んでいきます。本アクションプランで掲げた施策を確実に実行し、機能強化をはかることにより、商工会の魅力をアップさせていきます。

2) 行政への提言、陳情

組織2

組織率の高い強固な組織をもって、商工業施策はもちろんのこと、まちづくりのリーダーとして、行政・関係機関へ積極的な提言活動を行っていく。

3) 行政との共同事業実施

組織2

行政との懇談会を通じて共同事業を模索し、推進する。また、指定管理者制度については、商工会が関与できる事案を研究する。行政からも、商工会はなくてはならない組織として認識、評価していただけるようにしていく。

4) ホームページでの情報提供

組織1

ホームページを活用しての会員事業所間交流、異業種交流等に役立てていく。また新たなよりよいサービスの研究も続ける。

5) 事務局会議の定期開催

組織3

本部支所間、職員間の情報の共有と常に目標を一致させ、また、職員の得意分野を活かし、不得意分野を補うなどして効果的な事業推進、計画実行につないでいく。

④実行スケジュール

【ビジョン】 儲かる経営をバックアップする商工会						
実施項目		2007	2008	2009	2010	2011
経営	施策パンフレットの作成配布	開始	継続、内容の定期的見直し			
	計画に基づく巡回指導	開始	上・下期に分け、年度ごとに策定			
	専門家との連携指導	5件/年	→			累計25件
	経営戦略構築シート活用	6件/年	→			累計30件
	ITを活用した販路拡大支援	吉備きびスクエア3件/年 ワンサイト岡山6件/年	→		累計15件向上(22件) 累計30件向上(93件)	
	商談会開催による販路拡大支援	視察研究	試験開催 マッチング件数 5件/年	→		累計20件
	事務受託による経営の合理化	記帳機械化推進 労働保険事務代行推進	} 新規3件/年		→ 純増で微増	
金融	金融懇談会・相談会の開催	年1回開催	→			
	会員向融資制度の確立	協定締結	運用開始、3件/年		→ 累計12件	
組織	会員増強運動の実施	15事業所/年	→			300会員維持 組織率65%以上
	行政への提言、陳情	} 行政との懇談会 各事業への参画要請		指定管理者制度 研究	→	
	行政との共同事業実施				→	
	ホームページでの情報提供	会員事業所交流 異業種交流等に活用	定期的内容見直し ニーズに速やかに対応		→	
	事務局会議の定期開催	毎週1回開催し、情報共有、 円滑で効率的な事業推進	→			

(5) 地域(まち)づくり機能

【ビジョン】 地域に賑わい・助け合い・触れ合いをもたらす商工会

I. 『観光・交流振興』 —地域に賑わいと触れ合いをもたらす商工会—
豊かな地域資源(自然環境、歴史景観)と「日本一のれんげ畑」で、
温かくもてなし、多彩な交流を実現しよう

1) 吉備路れんげまつりを取り巻く現状分析

<外部環境>

①外部環境の変化と予測

◎政治・経済的環境要因

- ・平成19年度の国内総生産(GDP)実質成長率は2.0%の予測(18年度の実績見込みは1.9%)。
- ・19年度の個人消費は1.6%の予測。都市部で好調なもの地方では低迷、伸び悩み、格差の拡大が予測されています。

◎社会的環境要因

- ・核家族化、高齢化の進行により商工会地区の人口は14,013人(全市人口比 20.6%)、高齢者人口は3,647人(高齢化率26%)で、市全体の高齢化率20.9%を5.1ポイント上回っています。
なお、世帯数4,572のうち高齢者世帯が784で、市全体の高齢者世帯の11.7%を占めています。
- ・1市2村合併後の総社市の将来都市像は、「地域・文化・自然が支える心豊かな生活交流都市」としています。
ア) 総社市は、まちづくりの基本理念として共生(優しさを育てるまちづくり)、交流(元気を生み出すまちづくり)文化(豊かな心を育むまちづくり)の3つの柱を掲げています。
イ) 総社市における地域振興の基本方向は次の通りです。
 - ◎ 北部(昭和) 森と川が織りなすふれあい環境のまち
 - ◎ 東部(山手) 歴史的文化を守り新しい吉備文化を発信する交流のまち
 - ◎ 南部(清音) 魅力ある交流機能を持つ自然と調和のとれたアメニティのまち

②吉備路観光の動向と“春の花”観光の競合状況

◎最近の吉備路観光

・総観光客数の推移(H14～H17)

吉備路を訪れる観光客と吉備路れんげまつり
(単位:千人)

	14年	15年	16年	17年	備考
国分寺	304	548	553	539	
サンロード吉備路 利用者			166	178	16年開設
宿泊者			33.6	34.6	
ウエルサンピア			57	51	
吉備路れんげまつり				25	

◎“春の花”観光との競合状況

・和気町 清麻呂の里 藤まつり

・玉野市 渋川 藤まつり

<内部環境>

①吉備路れんげまつりの現状

沿革：地元青年グループによる「吉備路にれんげを咲かす運動」から始まり、昨年で21回目を数えます。

目的：れんげを観光資源としてとらえ、地域活性化、広域観光客の誘致を目的とします。

主催：吉備路れんげまつり実行委員会

<構成団体> 総社商工会議所、総社吉備路商工会、総社市観光協会、

②吉備路れんげまつりの現状分析

機会：吉備路れんげまつりは、まちづくりの基本理念（「共生、交流、文化」）に沿った地域イベントとして住民、地域団体、行政が支援。

来訪者にとって、GW（ゴールデンウィーク）中の行事であり、周遊観光として訪れやすい。

昨年、れんげの花が市の花に選定された。

脅威：GW（ゴールデンウィーク）中のイベントであるため各地で開催される類似イベントとの地域間競争に巻き込まれて、参加者数が頭打ちし、伸び悩む。

強み：吉備路れんげまつりは住民・地域団体が創設し、後に行政の強力な支援により軌道に乗った。住民・地域団体・行政の支援体制がしっかりしており、吉備路地域にしっかり根付いている。21年間の開催実績がある。

弱み：肝心のれんげの不作が近年目立つ。特色ある観光土産品の不足、魅力ある交流行事が乏しい等イベント自体が当初の輝きを失っている。

2) 吉備路れんげまつりへの提案 <項目、問題点、課題>

①れんげづくり 問題点 れんげの開花不良が近年続く

課題 れんげ祭りと呼ばれるにふさわしい「れんげの開花」が不可欠であり、「日本一のれんげ畑」づくりに取り組む必要があります。

②目的 問題点 地域間交流、触れ合いを一層充実する必要があります。

課題 地域活性、広域観光の推進に交流・触れ合いを追加します。

③目標、コンセプト

吉備路に「日本一のれんげ畑」を実現して、温かいもてなしと交流・触れ合いの文化を育てよう

3)「日本一のれんげ畑」実現への基本戦略、組織、施策の提言

①基本戦略

選択と集中の方針に基づき、モデル地区(国分寺周辺)で事業を集中的に実施。事業実施による成果をデモンストレーション効果として吉備路一円、市内一円に波及させます。

②組織

行政、市民、地域団体による協働(コラボレーション)を可能とする運動推進組織を設立します。

③事業施策 れんげフォトコンテストの実施

れんげ写生会の実施

周辺地権者、耕作者、行政との連絡協議会開催

吉備路れんげ米の研究(ブランド化、販路、米袋デザイン等)

もてなしの館の活用(館内展示室での展示、れんげ米の販売、他)

該当田畑の土質改良の研究

4)実施計画

19年度 「日本一のれんげ畑を育てる会」(仮称)の設立
れんげ写生会の実施(もてなしの館展示室で展示、公開)
れんげフォトコンテストの実施(" ")
関係地権者、耕作者と連絡協議会開催
吉備路れんげ米包装袋、販路等研究

20年度 該当田畑の暗渠、排水工事の検討
農業公社との連携
れんげ写生会の実施(もてなしの館展示室で展示、公開)
れんげフォトコンテストの実施(" ")
吉備路れんげ米のブランド化、販売

21年度 該当田畑の暗渠、排水工事
農業公社との共同作業
れんげ写生会の実施(もてなしの館展示室で展示、公開)
れんげフォトコンテストの実施(" ")

Ⅱ. 『高齢者福祉商業振興』—地域に助け合いと触れ合いをもたらす商工会—

伝統的日本文化「結いの心」を現代の共生システムに生かして、

安心して暮らせるまちづくりを推進しよう

1) 高齢者を取り巻く現状の分析

<外部環境>

① 外部環境の変化と予測

◎ 政治・経済的環境要因

- ・平成19年度の国内総生産(GDP)実質成長率は2.0%の予測(18年度実績見込みは1.9%)。
- ・19年度の個人消費は1.6%増の予測。都市部で好調なもの地方では低迷、伸び悩み、格差が広がる事が予測されています。

◎ 社会的環境要因

・核家族化、高齢化の進行

ア) 商工会地区の人口は14,013人 総社市の全人口比で20.6%を占めます。

高齢者人口(3,647人 高齢化比率26%)は総社市全体の高齢化率(20.9%)を5.1ポイントも上回っています。

イ) 高齢者世帯は、商工会地区で784世帯17.1%を占める。総社市全体では2,746世帯 11.7%を占め、商工会地区の高齢化が進んでいます。

商工会地区の高齢者、独居高齢者世帯の現況 (単位:人)

	独居老人	高齢者世帯	世帯数	65歳以上	全人口
昭和	158	351	1,493	1,488	4,080
山手	57	175	1,210	891	4,231
清音	76	258	1,869	1,268	5,702
商工会地区計	291	784	4,572	3,647	14,013
市全体	1,232	2,746	23,450	14,190	67,957

総社市地域包括支援センター調べ:平成18年10月1日現在

◎福祉的環境要因

当商工会地区の高齢者の現状は、社会環境要因で述べているように、独居老人が291人(市全体の独居老人の23.6%)に達しています。人口構造の年齢別分布状況から、独居老人が今後急激に増加し、生活全般の支援を必要とする高齢化社会の到来が間近に迫っています。独居高齢者の増加に伴う諸問題が重要な政策課題となる可能性があります。

<内部環境>

◎高齢者福祉商業の現状分析結果

機会

独居高齢者の増加に伴い、買い物、生活サービス等への需要が高まり、急拡大が見込まれる。

脅威

国や地方の財政危機、行政改革により公的助成の縮減、見直し等の政策転換があれば一気に不採算事業となるリスクがある。

強み

需要は確実に見込め、今後も拡大の一途を辿る。他に競争相手は考えられず独占的な供給提供者として、粗利益率は高い。行政の支援が期待できる。

弱み

全体として需要は多いが、各地域に点として存在するため効率が悪い。特に、山間僻地等へのサービス提供は採算割れになり、公的助成無しには継続的な提供ができない。

2) 高齢者福祉商業の現状の問題点と今後の課題

問題点

- ・独居高齢者、交通弱者への商品・サービスは商店主の半分善意により提供。
商店主の加齢、高齢化により、商品を提供できる期間が限られます。

課題

- ・独居高齢者・交通弱者にとって、商品・サービスの提供を安心して任せられる機関による仲介が必要。

3) 高齢者福祉商業の目的、目標、コンセプト

- ①目的：日本社会に根付いていた「結いの心」による助け合いで、安心して暮らせるまちづくり
- ②目標：独居高齢者・交通弱者に対して、安否確認と共に必要な商品と生活サービスを提供します
- ③コンセプト：行政、商工業者、地域団体(商工会、社会福祉協議会等)の協働(コラボレーション)による福祉商業を推進します

4) 福祉商業推進にあたっての基本戦略、組織、施策の提言

- ①基本戦略 行政、商工会、社会福祉協議会との連携による各団体の役割・分担区分の明確化。
商工業者へのビジネスチャンスとして位置づけ、地産地消の面からも推進します。
- ②組織 独居高齢者、交通弱者と商工業者を結ぶ取り次ぎ、仲介機関の設立
- ③事業施策 行政、商工会、社会福祉協議会との連絡、情報交換会
仲介機関設立の研究
買い物サービスの研究(発注方法、取扱商品の範囲、提供サービスの範囲等)
決済方法の研究(現金、口座振替等)

5) 実施計画

- | | |
|------|--|
| 19年度 | 行政、商工会、社会福祉協議会との情報交換会
独居高齢者、交通弱者と商工業者を結ぶ取り次ぎ、仲介機関について研究
買い物サービスの研究(発注方法、取扱商品の範囲、提供サービスの範囲等)
決済方法の研究(現金、口座振替等) |
| 20年度 | 独居高齢者、交通弱者と商工業者を結ぶ取り次ぎ、仲介機関について研究、設立
買い物サービスの研究(発注方法、取扱商品の範囲、提供サービスの範囲等)
決済方法の研究(現金、口座振替等) |
| 21年度 | 独居高齢者、交通弱者と商工業者を結ぶ取り次ぎ、仲介機関サービス開始
買い物サービスの実施
生活サービスの実施 |